

# “鮮度一番！”

No.233

～女性と男性が支え合う社会をつくる～

CONTENTS

- 1～2 / 第23回三条女性会議総会 記念講演より 第4回
- 2 / ひとことコラム
- 3 / 運営委員会で話し合われたこと
- 4 / 又エック感想 編集後記

第23回三条女性会議総会（H30.5.26） 記念講演会より 第4回

## 家庭教育の大切さについて

～教育現場と少年センターをとおして見えてきた子どもの今～

講師 梅津玲子

(新潟県立大学非常勤講師/新潟県社会教育委員等)

思いやりの心は「思いやられること」で育まれていきます。思いやりのない子は思いやってもらってよかった経験が少ないということです。ですから、思いやられる経験を積ませてやってくださいね。子どもが減らず口をきいたら、どなって怒るのではなく、そう言いたくなった子どもを思いやるような言葉をかけてあげること、その積み重ねで思いやりのある子に成長していきます。

また、ちょっと話は変わりますが、「ねばり強さ」はどうすればねばり強くなると思いますか。これは結果重視ではなく、その過程において、否定的な言葉を使わず、励ますことで伸びていきます。周りにいる大人のかかわりかたを子どもはみんな見て育っていくのです。

親や家族から認めてもらえる、自己の存在を感じることができる、有用であると感じることができる、共感してくれる人がいるなど、非認知能力の土台は自己肯定感なのです。自己肯定感がつくと、自分に自信がつきます。自己肯定感をもたせるためには、「人と比べないこと」「ありのままの君が大好きだよ」「あなたのことを私たちは必要としているよ」と普段から言葉でしっかりと伝えることです。まちがっても、「あなたなんて生まれてこない方がよかった」などと言わないように。自分は価値ある存在だと思えるようになると失敗を恐れずチャレンジする子になるし、心に余裕が生まれて人間関係がうまく築けるようになります。自己肯定感とは学力を伸ばしていくためにも欠かせない要素なのです。

また、暴力、いじめ、不登校、リストカット、万引きなど、子どもたちのすべての問題行動の背景にあるのは、自尊感情の傷つき、自己肯定感の低下だからだそうです。「どうせ、おれは」「どうせ、私は」という「否定的な思い癖」です。そして、「どうせ、おれなんか」「どうせ、私なんか」と思っている子が大体は暴力をふるうようになり、不登校になり、いじめに走り、万引きをし、リストカットするなどといわれています。

いじめと言えばこんな調査結果があります。小学校4年生から中学校3年までの毎年2回で計2回の継続調査なのですが、いじめの加害経験のある子は89%、いじめの被害経験のある子は90%もいたそうです。

誰もがいじめに巻き込まれる恐れがあり、誰もが無関係ではいられないというのが現実です。被害者にも加害者にもなりうるということですよ。現在の子どもたちの多くは仲間から排除され、孤立するのをひどく恐れ、おびえているようにも思います。みんな仲良くとかと協調性の価値を言い過ぎてきたのかもしれませんが、でも、子どもが一人でも価値があることを教えていく必要があるのではないのでしょうか。一人だけ一つとしている時に、想像力や創造性が育まれるといわれています。協調性は生きていく上で重要です。しかし、自分を一番理解してくれる、頼りになる親がいてくれるという土台がしっかりしている子は一人ぼっちであろうが強くなれるのではないのでしょうか。

昨年度も県内ではいじめによる自死がありました。子どもはいじめられていることについては、親になかなか話してくれません。プライドがありますし、親には心配をかけたくないという思いからです。では、どうすればいいのでしょうか。それは、普段から、子どもが辛い時には「つらいよ」と言える関係、援助希求といいますが、そんな関係を作っておくことが親子間で大事ですね。どんな親ならいいのかといいますが、まず、第一に「この親は口がかたい」、自分の親は変に大騒ぎをしないと思えること、すぐに学校に行って騒いでしまうような心配があると子どもは何も話してくれません。騒がれると子どもは学校にかえって行きにくくなります。二つ目は「話しやすい、助けを求めやすい、自分のことをよくわかってくれる」ということ。三つめは「必ず全力で守ってくれる」ということ。このような親であればちゃんと話してくれるでしょう。

自己肯定感の話からついじめについて長くなりました。

## ・・・ひとことコラム・・・

### ～「うみがたり」～

阿部正剛

先日の連休中に、学生時代の友人が山梨から車で新潟まで遊びに来ました。一昨年も夫婦で来たことがあるのですが、楽しかったので今回は御両親も一緒にドライブがてら来たいと言うことだったので、高齢のご両親が三条や新潟では長距離で疲れるので北陸自動車道に入って直ぐの上越で良いところがないかなと思ひ、海のない山梨から来るので近くに海もありお魚も見られるので、6月にリニューアルオープンした上越市立水族博物館「うみがたり」へ行ってきました。(すでに行かれて方も多と思います)

混んでいるとは聞いていたのですがリニューアルオープンから三ヶ月近く経ち夏休みも終わったので、もう一周回ってそれほど混んではいないだろうと高をくくっていたのですが、差に非ず大変な混雑ぶりでした。9時半ころ着いたのですが既に長蛇の列で入場券を買うのに1時間くらい待ちました。それでも並んでいるうちにどんどん行列は長くなって友人達が来たお昼頃には2時間待ち位になっていました。入場券を買っていたので友人達は並ばずに入場できたのですがもちろん館内も大渋滞。友人のご両親も高齢で足が悪く特にお父さんは車椅子を借りての移動でしたのゆっくり見学とはいきませんでした。

リニューアルしたばかりなので館内は流石にキレイで、イルカやペンギン、クラゲ(ラッコはいませんでした)等々楽しく見学できるように工夫されているようでしたが、バリアフリーと言う観点からは今ひとつでした。エレベーターは小さく長時間待たされ、スロープは急で、トイレも数が少なく長蛇の列です。想定以上の来場者で対応が追いつかないのかもしれませんが、せっかくご両親まで一緒に来てくれた友人達もゆっくりできなかったのだろうと申し訳ない思いでした。

その後、近く中華料理店でランチをとりながらゆっくりお話しできて、ご両親は海も間近で見られたし魚もたくさん見られて楽しかったとは言ってくれましたがお疲れだったと思います。グーグルの口コミでは評価3.7ですが、僕的には★★ってところで、まあ1回行けばもう良いかなって感じです。

## 運営委員会で話し合われたこと



日 時 平成30年10月3日(水) (AM9:30~11:30)

場 所 三条市男女共同参画センター

次回の運営委員会は、11月7日(水曜日)9時30分から男女共同参画センターです。  
どなたでもおいでください。

1.

### 三条市の出前講座

#### “一人一人が輝く男女共同参画社会を目指して”について

上記講座の開催時期について、話し合いました。

後日、三条市市民部地域経営課地域振興係の担当者と連絡を取り日時が決定しました。

日時は、来年1月19日(土曜日)午後3時から5時まで、会場は、男女共同参画センター、  
テーマは、「自分も相手も大切に！～ストレス知らずに毎日を過ごす方法～」、講師は、はっ  
ぴーズコミュ代表の土田陽子さんです。西方さん曰く、笑顔の素敵な講師だということだ  
ので、はっぴーになれること間違いなしの講座だと思います。

出前講座終了後は、男女共同参画センターと同じ三条ものづくり学校内にあるイタリア料  
理店「ゼロニゴロク」での新年会を予定しています。こちらのお店は、11月に入ってから  
の確定となりますので、お引き受けくださることを願っています。

どうぞ来年1月19日(土曜日)みんなでお会いしましょうね!!

2.

### 第32回ウィルながおかフォーラムイベントについて

会員の長野洋子さんが上記のイベントの情報を持って運営委員会に出席してくださいま  
した。早速、田辺、安室、米田、野崎が、参加することになりましたので、皆様もご一緒し  
ませんか？

#### ◆今さらですが ハラスメントってなあに？

モラハラ、パワハラ、セクハラ、マタハラ、アカハラ…最近よく耳にしま  
すが、あなたはこの言葉の意味を知っていますか…？「何が？どうなの？」  
講師が分かりやすく解説してくれます。みんな学びましょう！

◆日 時：2018年11月17日(土) 13:30～

◆会 場：みちなかキャンパス3F 創作交流室

◆講 師：弁護士 黒岩海映(くろいわみはえ)さん

◆参加費：無料(先着30名)

◆問合せ：TEL/FAX 0258-33-8227 鈴木

◆主 催：ウィメンズスタディズ・ネットワーキング

長岡市男女平等推進センター ウィルながおか

3.

### 「ワイワイ女性ひろば」について

担当の田辺とも子さんから、長寿になった番組への問題提起がありました。

放送内容が、上滑りしていないか？マンネリ化していないか？

公共の放送ゆえの難しさもあり、どんな問題をどんな切り口で伝えて行ったらいいのか、  
すぐに結論はできませんが、来年の4月の放送まで、みんな考えていくことになりました。

【又エックの感想】

三条市市民部地域経営課  
柴野 絢子

ワークショップは、サードエイジサロンという団体が行った「あれから10年、男女平等推進センターから生まれたシニア男性グループのその後！」に参加した。このサードエイジサロンという団体は東京都大田区にあるNPO法人男女共同参画おおたが性別に関係なく、男女平等に関して一緒に考えられる人を多く作りたいという主旨で企画した連続講座「男の生き方塾」を受講した修了生達が集まって活動している団体である。これまで仕事だけで生きてきた男性が定年後の第3の人生をいかに生き活きと過ごしていくかを「男の生き方塾」を通して学び、その後多くの修了生達がサードエイジサロンのメンバーとして、地域の活動に参加しているそうだ。それらが地域での仲間作りや生きがいにつながり、団体として活動を長く続けてこれた要因であるという話であった。NPO法人男女共同参画おおたは男女共同参画社会の実現に向けた活動として、女性向けだけでなく、男性向けのアプローチも必要と考えており、サードエイジサロンのような男性グループの活動を支援することで、男性から男性に対して男女共同参画の重要性を広げてもらうためのきっかけ作りをしたいと考えており、この事例は一つのモデルケースとして参考になった。

午後からの国谷裕子氏による特別講演「すべての男女が活躍でき、働きやすく暮らしやすい社会を創る」では、日本のジェンダー・ギャップ指数（GGI）は年々低下していることを取り上げ、女性の社会参画が進んでいない現状を自身のクローズアップ現代のキャスターを務めた経験談も交えながら伝え、男女平等参画社会の実現に向け、より変革のスピードを上げていくことがSDGs（持続可能な開発目標）の達成や社会、経済、環境等の社会問題の解決につながるといった内容であった。

講演の中で、女性の社会参画が進まない理由として、組織の中で重要な意思決定を行うメンバーに占める女性の割合が少ないことを挙げていた。女性の割合が少ない背景には、意思決定権を持つ男性が女性に対して、「能力が相応ではない」、「意欲がない」、「すぐに辞めてしまう」といった誤った認識を持っているケースが少なくないという話であった。

本フォーラムに参加してみて、ワークショップや特別講演の参加者は女性がその大半を占めていた。しかし、男女共同参画社会の実現に向けては、男性に対してそういった意識や理解を深めてもらえるような取組を行うことが、今後必要になってくるのではと考えさせられた。

編集後記：

秋の夜長を盃片手に・・・なんて思っていると「お母さん今日は飲みましょうか？」とお嫁さんが声を掛けてくれます。いいもんですね！ 昼間は娘の子どもたちの子守りに振り回されて……やっとなってきた夕食後の大人の時間にどっぷりと浸っております。鮮度一番をご愛読の皆さま自分へのご褒美ちゃんとあげていきますでしょうか？

鮮度一番233号お届けします。どうぞ隅から隅までお読みください。(原)



編集発行：三条女性会議・代表 野崎ミチコ

連絡先：三条市田島2丁目12-12 Tel 32-3667 FAX 32-3679

ホームページアドレス：<http://www.joseikaigi.net>